

岡山県社会資本総合整備計画

～ 岡山県における土砂災害対策の推進(防災・安全) ～

中間評価



目標に関する対策の実施状況

設定した計画の成果目標達成に向けて、ハード対策(砂防事業・地すべり対策事業・急傾斜地崩壊対策事業)及びソフト対策(土砂災害警戒区域等の指定)を実施しています。

なお、ソフト対策(土砂災害警戒区域指定)については、県政推進の羅針盤である「晴れの国おかやま生き生きプラン」において、「区域指定等により、土砂災害の避難体制を整える箇所数7,898箇所→12,000箇所」とした目標値を掲げており、優先的に事業を実施しています。

★中間年度(H24年度末)までに整備が完了した代表事例★

【砂防事業】



巨石が不安定な状態で堆積 <(砂)栗谷川支川(新見市)>



【急傾斜地崩壊対策事業】



がけ崩れ発生 <(急)沖割地区(玉野市)>



【地すべり対策事業】



地すべりにより石垣が変形 <(地)畑ノ上地区(高梁市)>



【ソフト対策】



<警戒区域等の指定:(里庄町)>

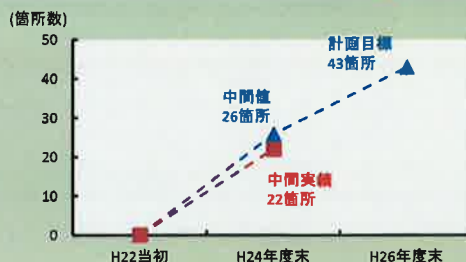
中間評価結果及び今後の方針

計画の中間年である、平成24年度末時点の評価を行いました。各指標に対する状況は次のとおりです。今後も引き続き、最終年度における効果発現目標の達成に向け、事業を推進していきます。

指標①: 施設整備完了箇所の増加

【中間評価】

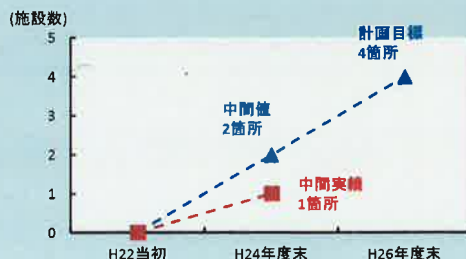
ソフト対策を優先したことなどにより、ハード対策箇所において事業期間の延伸の必要が生じたため、中間値を下回る状況となっています。



指標②: 災害時要援護者関連施設の安全確保ができる施設数の増加

【中間評価】

ソフト対策を優先したことなどにより、ハード対策箇所において事業期間の延伸の必要が生じたため、中間値を下回る状況となっていますが、4箇所での新規事業着手するなど、着実にハード対策を推進しています。



岡山県社会資本総合整備計画

～ 岡山県における土砂災害対策の推進(防災・安全) ～

中間評価

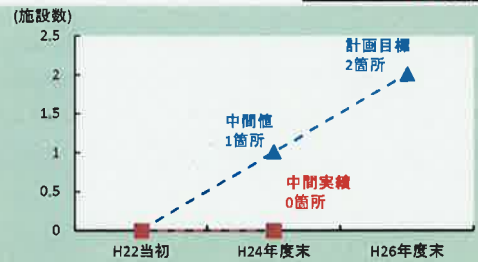


(凡例) ▲ 計画
■ 実績

指標③: 指標②のうち、24時間滞在型で収容人数50人以上の災害時要援護者関連施設数の増加

【中間評価】

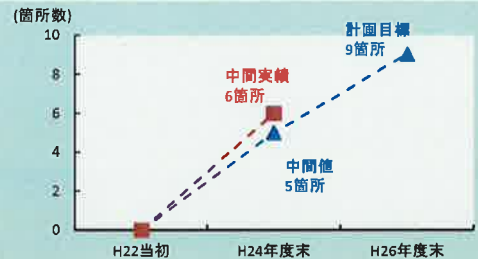
ソフト対策を優先したことなどにより、ハード対策箇所において事業期間の延伸の必要が生じたため、中間値を下回る状況となっていますが、3箇所で新規事業着手するなど、着実にハード対策を推進しています。



指標④: 避難場所の安全確保ができる箇所数の増加

【中間評価】

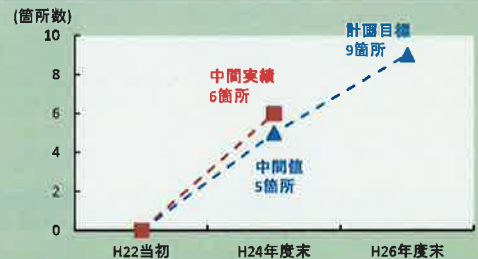
進捗状況は順調です。



指標⑤: 重要交通網の安全確保ができる箇所数の増加

【中間評価】

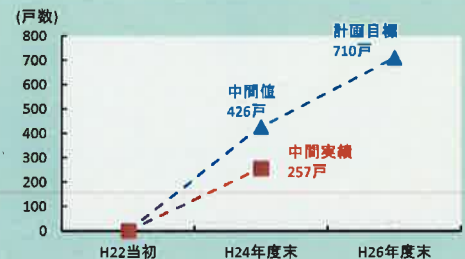
進捗状況は順調です。



指標⑥: 安全確保される人家数の増加

【中間評価】

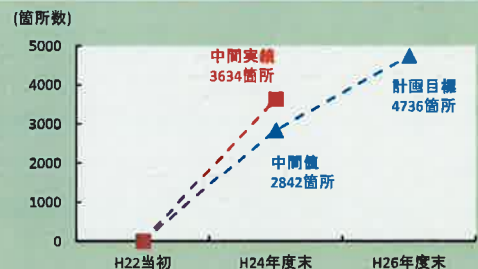
ソフト対策を優先したことなどにより、ハード対策箇所において事業期間の延伸の必要が生じたため、中間値を下回る状況となっています。



指標⑦: 土砂災害警戒区域の指定箇所数の増加

【中間評価】

進捗状況は順調です。



指標⑧: 指標⑦のうち、災害時要援護者関連施設が存在する指定箇所数の増加

【中間評価】

中間目標を、達成しています。

